

●しながわCSR企業連絡会とは・・・

品川区に事業所を有する企業や団体等の社会貢献活動が円滑に行なわれるように、各種調整や情報交換を行うことを目的とし平成19年に発足しました。
事務局を品川区社会福祉協議会に置いています。

●第33回しながわCSR企業連絡会

令和6年8月20日に対面型で開催しました。概要をご案内します。



1 セミナー

「CSR入門 ～あらためて企業の社会貢献活動を考える～」 認定NPO法人 日本NPOセンター 事務局次長 上田 英司 氏

★: 認定NPO法人 日本NPOセンターについて

1996年の設立以来、民間非営利セクターに関するインフラストラクチャー・オーガニゼーション(基盤的組織)として、「NPOの社会的基盤の強化を図り、市民社会づくりの共同責任者としての企業や行政との新しいパートナーシップの確立を目指す」という使命そのままに、多様な主体との連携・協働により数多くの事業を展開している。

★: 講師紹介

島根県出身。大学在学中に国際ボランティアに参加し、市民活動の持つ可能性に魅せられ大学を中退。国際ボランティアNGO・NICEの事務局長を経て、2017年日本NPOセンター入職。狛江市市民活動支援センター運営委員長などを務める。企業とNPOの協働事業やボランティアコーディネーションを専門として、市民参加の推進に取り組む。

★: 社会貢献活動の捉え方

・経団連の『CSR時代の社会貢献活動(中間報告)』(2007年)に記載されている「社会貢献」の定義で、「直接の対価を求めることなく」は、いつも議論となる部分である。
・その後の『新成長戦略』(2020年、経団連)では、句点がタイトルのはじめに打たれているように、これまでの成長戦略路線に一旦終止符を打ち、新たな方向性を提言する内容。企業では、従来の「CSR部」から「サステナビリティ推進部」に組織改編するなどの動きがでている。それに伴い、今まで担当部署が野党のような形で動いていたのが、少数与党のような動きとなり、サステナビリティレポートや投資家向けの関連資料の作成など負担が増える一方、予算獲得は難しい状況になっている。

★: 協働(パートナーシップの考え方)

・協働の定義・考え方で、「対等の立場」という視点は特に重要である。

★: 社会貢献活動への期待

・各グループで、社会貢献活動への期待について意見交換を実施
・経団連のアンケート調査では、2005年に比べて2020年では「社員が社会的課題に触れて成長する機会」や「経営理念やビジョンの実現の一環」を回答する企業が増えている
・「社員が社会的課題に触れて成長する機会」については、社員がどんな形で、ボランティア活動等の社会貢献活動に関われるかのニーズが高まっている

★: 多様な社会貢献活動

・社会貢献活動には、大きく分けて「資金的支援」、「物的支援」、「人的支援」、「協働プログラム」があるが、このうち「協働プログラム」が増えている

★: 実践事例

『SAVE JAPANプロジェクト』(損保ジャパン)

・自動車保険契約時、ペーパーレスを選択時に社会貢献プログラムに寄付される仕組み
・特設サイトで、各プロジェクトを紹介している

『伝えるコツ』(電通)

・いわゆるプロボノ活動で、社員が講師となって、NPOのコミュニケーション能力の向上を目的とする

『株主優待品の寄贈仲介プログラム』(明治ホールディングス)

・株主優待品と同等の物(菓子等)を福祉団体に寄付(計280団体)

『再雇用でNPOへ出向』(花王)

・60歳以上の再雇用を自社のみでなく、NPOへ出向という形で支援
・人件費は企業負担(実費・交通費はNPO負担)
・出向者は、NPOのトレンドなどを企業にフィードバック
・第1号の出向先は、日本NPOセンター(2017年～)
『NPTechイニシアティブ』(インテル等)
・参画企業の社員が講師となり、NPO職員のICTスキル向上支援
・PC購入する際の選定ポイントをCPU関係の企業が社員がアドバイスする等

★: NPOと企業の連携促進に関する課題意識

1) 本業と運動することが重視されることによる難しさ
・(全社的にではなく)地域性を考えて、各支店で出来ることを模索するなど
2) 社員参加とニーズのマッチング
・例えば、平日50人、2時間のボランティア活動の相談などがあるが、そのようなニーズは少なく、マッチングは難しい
・NPO側は、少人数で定期的に活動いただけると有難い
3) 成果重視の社会貢献活動
・株主や従業員等への説明責任がある

■グループ発表

・課題としてNPOは、認知度、資金面、活動場所の確保、事務所の確保が挙げられた。解決策としては、マッチングアプリの利活用、助成金の確保、高齢者施設の利活用で場所の確保、共同で空き家や倉庫などを借りてシェアする。
・講座やイベントの告知は、ケーブルテレビの事業とリンクできればと思う。
・コンビニの活用法を皆さんに聞くような時間だった。
・イートインスペース(19時まで)があり、習い事やスマイルスクールなどの後で、保護者の迎えが遅くなる場合に、子どもの待機スペース(大人の目)として活用できるのではないかと。

【講師コメント】

悩みごとからスタートするといつも思っている。困っている、経営課題からスタートしたほうが通りやすいことも多い。NPOも課題から、当事者の困り事から始まると、色々アイデアが出てくると思う。今後に繋げていただければ。

■質疑応答・情報提供

・以前、品川ケーブルテレビの取材を受けて反響があった。取材や告知はどうすればよいか？
⇒取材や告知は、相談いただければ、随時対応する。

関連して、以前、イベントをケーブルテレビに取り上げていただいた。番組では、品川区提供の枠もある。その他の広報手段として、区のSNSは直前でも発信頂けたことがあった。

どんな情報があると取材に来やすいか？

⇒いつで、どこで、イベント等の内容の3点が分かれば、概ね、取材に行ける。予定が合えば3日前でも大丈夫だが、1週間程度余裕があるとありがたい。

2 連絡事項

事務局より連絡事項

・CSR活動報告

年度ごとにCSR活動の報告をお願いしています。品川区社会福祉協議会のウェブサイトにも、CSR活動の情報を掲載いたします。1年分をまとめ4月15日までに事務局へご提出(メールもしくはFAX)ください。

・企業向けボランティア活動については、施設でのイベントのお手伝い等をお繋ぎできる場合があります。活動を検討されている場合は、早めにご相談ください。

・最近、各地で大きな地震が発生。南海トラフ地震臨時情報も発表された。もしもの災害時に備えてボランティアセンターでは、近年「災害ボランティアセンター」の立ち上げ訓練を実施している。街頭募金なども行う機会もあると思うが、企業様・団体にも協力いただければと思う(能登半島地震では、ご協力いただきありがとうございます)。

被災地の状況について、能登半島地震では、特に奥能登地方と呼ばれる、輪島市、珠洲市などでは、上下水道などのインフラが未だに復活していない地域もある。それらの地域では、引き続き、支援団体がそれぞれの得意分野を活かした支援活動や、企業ボランティアによる復旧活動、災害ボランティアセンターの運営支援などが行われている。参加企業に関連させると、小型重機を使った技術系ボランティアによる活動や、商工会からの熱中症予防対策の飲料寄付なども行われている。災害ボランティアセンター運営では、力仕事だけでなく、こども支援などの多様なニーズが寄せられるため、品川でいざというときは、このつながりを活かして、被災者支援につながればと思うので、引き続き、ご協力願う。

・ご回答いただいたアンケートについて
まとめたものをメールで送付していますので、ご確認願います。

次回のCSR企業連絡会は、2月頃に開催予定しています。

第33回 しながわCSR企業連絡会 参加団体・企業(順不同) お忙しい中、ご参加いただきありがとうございました！

【団体】 NPO法人ふれあいの家ーおばちゃんち、NPO法人教育サポートセンターNIRE、NPO法人難民を助ける会
NPO法人しながわチャイルドライン、認定NPO法人プラチナ美容塾、NPO法人そとぼーよ

【企業】株式会社ケーブルテレビ品川、東京商工会議所品川支部、合同会社ヤマナカ、住友重機械工業株式会社